

「仕事」にも不思議な効力がある！

40. 職場で“価値ある人間”になる最良の方法

職場で必要とされる価値ある人間になる最良の方法は、愛（思いやり、配慮）をあまねく放射することです。

最近、リストラが盛んに行なわれ、いつその対象になるかとひやひやしている人が大勢いるようですが、マーフィー博士はアメリカのビッグチェーンストア経営者と交わした興味深い会話を、その著書『眠りながら巨富を得る』（三笠書房刊）の中で次のように記しています。

「……会社をクビになる人の九九パーセントは、無能だとか、手くせが悪いとか、のろまだという理由で解雇されているのではないそうです。本当の理由は、自分の仲間やお客さんとうまくやっていけないところにあるのだそうです」

これは隣人や仲間への思いやり、配慮の欠如が、仕事をする上での一大欠陥であることを示しています。職場で必要とされる価値ある人間になる最良の方法は、愛をあまねく放射することと言えるでしょう。博士が「愛」と言うとき、かけがえのない、人間がよりよく生きる上で、絶対に避けて通れない重要な概念としてとらえられています。

なぜなら、愛とは宇宙を支配し、国家をつくり上げ、人間を結びつける、あらゆる結合力のことだからです。このような愛の概念はマーフィー博士独特のものでしょうか。そうではありません。博士の愛の概念はバイブルの愛の概念と同一のものです。

たとえば新約聖書の中の「ローマ人への手紙」には、次のようなくだりがあります。「あなた方は、互いに愛しあうことのほかは、誰にも何も負ってはなりません。仲間の人間を愛するものは律法を全うしているのです」（十三章八節）

バイブルでいう律法とは十戒のことで、姦淫を犯してはならない、殺人をしてはならない、盗んではならない、むさぼってはならない……など人間として、してはいけない事柄が定められています。これを犯すのが「悪」ということになりませんが、「ローマ人……」の続きにこうあるのです。

「愛は自分の隣人に対して悪を行ないません。ですから愛は律法を全うしているのです」（十三章十節）

聖書に書かれたことを正しく実践するには、愛さえあればいい。愛とはそれほど価値あるものなのです。

それは、仕事をするときにおいてもまったく同じなのです。